

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果

2. 算数の調査結果の概要

正答率の高い項目

問題の概要	問題形式	正答率
4(1) 新品のハンドソープが空になるまでに何プッシュすることができるのかを調べるために、必要な事柄を選ぶ。	選択式	89.7%
3(4) $1/2+1/3$ を計算する。	短答式	87.2%
1(1) 2022年の全国のブロッコリーの出荷量が2002年の全国のブロッコリーの出荷量の約何倍かを、棒グラフから読み取って選ぶ。	選択式	84.6%
3(1) $0.4+0.05$ について、整数の加法で考えときの共通する単位を書く。	短答式	84.6%

正答率の低い項目

1(2) 都道府県Aのブロッコリーの出荷量が増えたかどうかを調べるために、適切なグラフを選び、出荷量の増減を判断し、そのわけを書く。	記述式	30.8%
2(4) 五角形の面積を求めるために五角形を二つの図形に分割し、それぞれの図形の面積の求め方を書く。	記述式	30.8%
3(2) $3/4+2/3$ について、共通する単位分数と $3/4$ と $2/3$ が、共通する単位分数の幾つ分になるかを書く。	短答式	30.8%

(1) 分析

正答率の高い項目と、正答率の低い3つの項目について分析を行った。

＜正答率が高い＞結果から、以下の内容が多くの児童へ身に付いていることが分かった。

- ① 伴って変わる2つの数量の関係に着目し、必要な数量を見出すことができる。
- ② 異分母の分数の加法の計算することができる。
- ③ 棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができる。

以上の理由は、①単位当たり量の重要性についてしっかりと理解していたと考えられる。②単位分数同士の加法が十分に身に付いている。③消去法からでも解けてしまうくらい明らかな問題であったということが考えられる。

＜正答率が低い＞結果から、多くの児童が以下の内容について苦手意識をもつことが分かった。

- ① 目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できる。
- ② 基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述できる。
- ③ 分数の加法について、共通する単位分数を見出し、加数と被加数が、共通する単位分数のいくつ分かを数や言葉を用いて記述できる。

以上の理由は、①や②は、筋道を立てて自分の考えを表現することを苦手としていた。②は、分数において、「もとにする数」という言葉が理解できなかったと思われる。

(2) 対策

◎考えを文章で表現する機会を増やす。

自力解決をした際、考えを筋道を立てて、ノートに作文させる。また、式や数値、図形の部分やグラフを活用しながらの説明の仕方について学習させる。さらに、互いが書いた文の表現のよさを比べさせるような機会も増やすことで、考えを文章で表現することに慣れさせる。

◎算数用語を正しく教え、正しく使う。

算数科の問題では、場面を明確にするために、算数的用語が説明に含まれることが多く、用語への理解が必要となる。例えば、「もとにする」や「和差積商」、「等しい」などの算数的な用語について正しく使われているか推敲したり、進んで使うようにさせたりする。また、それと共に、指導者側も正しく使うように意識をさせる。